

調査名

孔番・深度

H27B-4 ( 45 ~ 50 )

観察日

7/5

# 基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの種さ	風化				
45						✓ N	✓ C					45.10 節断性の節理 上盤側は一部コアの脆弱となる。絹雲母が散在している。
	45.42					✓ V	✓ D			CL		45.42 ~ 45.62 微細な割れ目が集り、コアの表面がざらつく傾向が多い。
	45.62					✓ N	✓ C					46.73 ~ 45.80 割れ目沿いに劣化し、碎粒の砂状となる。
46	46.00							✓ 0	✓ 8	46.00		
	46.10			57R 3/4			B			CM		46.10 ~ 46.35 60 ~ 70°の割れ目が多く、挟持物の見出しの割れ目もあるが、汚染はほとんど見られない。
	46.28					✓ V	✓ C			CL		
47												
	47.11					✓ C	✓ N			3	CM	
	47.32											
	47.53					✓ N						47.56 ~ 47.63 高角度と低角度の割れ目が交り格子状となる。割れ目の汚染は見られ、砂状の挟持物が見える。
	47.76						B			CM		47.64 ~ 47.76 微細な割れ目が多く、脆弱となる。47.76 ~ 47.88 間は、割れ目沿いのマニガン汚染が明瞭。
48								✓ 0	✓ 9			
												48.38 破砕帯 上盤 52° 下盤 45° 幅 20 ~ 40 cm 程度 存在する
						✓ V	✓ D			CL		
49								✓ 0	✓ 5			
	49.32					✓ N	✓ C					49.18 節断性の節理 60° 上盤側は幅 20 cm 程度 脆弱となる 49.42 白色の絹雲母の劣化に伴って、取厚 4 ~ 5 mm 角度 40°
50								✓ 21	✓ 11			

調査名

孔番・深度

1127B-4 (50~55)

観察日

7/16

# 基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	
					割れ目状態	コアの形状	コアの種さ	風化				
50												50.0? 50°の開口割れ目にマコガシ層が5cm折出
	50.39					N	C			CL		39 50.39~50.60 岩化L. コア割れ目軟弱。裏面は砂状と成り がある。取厚脆弱
	50.60					N	E			D		50.58~50.92 白色細脈が不規則に入る。
51	50.99					N			0	6		51.00~51.43 微細な割れ目が連続し連甲状となり 割れ目と50.72より深い排色帯(カリ層石)が見られる所がある。
	51.48			51R 7/3 1=3.1 橙		N	C					51.44~51.90 微細な割れ目が非常に連続(20~30)。コアは軟 層となる。
	51.70					N						51.90 45°の割れ目沿いに変質した白色結晶物層が4cm 汚色汚濁明瞭。
52	51.99		GP			N			11	11		52.00~52.44 微細な割れ目が連続。コアは局所的に破砕 となる。上盤側の割れ目に厚さ4cmのマコガシ存在する。
	52.30					N						52.44~52.75 低角度の割れ目が連続。割れ目に沿って 汚濁は軽微である。
	52.68					N						52.75~53.54 割れ目沿いの岩化が明瞭で、コアの一部は粗碎 ~砂状となる。
53	53.54					N			0	6		53.54 54.20 高角度の割れ目と沿って岩化し一部粗碎状となる。
	54.01					N						
54	54.13			54.13 10YR 7/6 明 黄 橙		N	C			6	4	54.46~54.73 50~60°のほぼ平行な割れ目沿って岩化し一部 砂状となり、汚色汚濁も顕著。
	54.65					N						
	54.72			54.72 5YR 7/3 1=3.1 橙		N						
55						N			0	9		

調査名

孔番・深度

H27B-4 (55~60)

観察日

7/17

# 基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの種さ	風化				
55											54.96 ~ 55.54 低角度の割れ目が非常に多い	
	55.64								CL		55.64 ~ 56.00 50°の割れ目同様に厚さ2mm程度のものが存在する。褐色汚濁も明瞭である。	
	55.90											
56	56.00											
	56.06											
	56.41								CM		56.45 ~ 56.61 高角度と低角度の割れ目が交差し、変質状と目3。	
	57.09										56.94 ~ 57.00 70°の割れ目は褐色粘土層3mm存在。	
	57.41										57.00 ~ 58.00 50°の195°平行して微細な割れ目が多い。一部は状コアと目3。	
57	57.41										57.24 ~ 58.50 同様に多くの割れ目に褐色汚濁が見られる。	
	57.54								CM		57.54 ~ 57.74 割れ目沿いに劣化。軟質脆弱。	
	57.91											
	58.06										58.00 ~ 58.74 砂状の塊状物が見られる割れ目が多い。劣化は硬い。	
	58.71											
58	58.06											
	58.71											
	59.02										59.02 ~ 59.34 潜在的な節理に際して、割れ目の細かい柱状コア層も硬い。	
	59.34											
	59.62											
59	59.02											
	59.34											
	59.62											
60												

調査名

孔番・深度

H27B-4 (60 ~ 65)

観察日

7/21

# 基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 (m)	深度 (m)	境界・重要位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
60	60.07											60.07 ~ 60.05m 微細な割れ目が卓越し、コアは軟質と見る。割れ目沿いにコア表面は凹凸が少なく、滑らか。
	60.05			5YR 7/5								60.05 ~ 60.82m 低~中角度の平行に近い割れ目が卓越。割れ目と沿って褐色泥状物が明瞭。
	60.82			3C								60.82 ~ 61.72m 微細な割れ目が卓越。コアは軟質と脆弱。特に 61.40m 61.72m 間は風化が顕著。
61	61.72			橙								61.72 ~ 62.36m 割れ目若干大きくはなす。不規則な微細な割れ目が非常に卓越する。
	61.72			橙								61.72 ~ 62.36m コアは軟質とやや表面が滑らか。
	62.36			橙								62.36 ~ 62.56m (62.56m コアは軟質と見る)。表面が滑らか。傾斜度がやや優性で不規則な微細な割れ目が卓越する。
62	62.56			橙								62.56 ~ 63.20m 前出の割れ目(節理) 幅 10mm 左右 緑色土を帯び、褐色泥状物が明瞭。
	63.20			橙								63.20 ~ 63.62m 劣化した節理に軟変脆弱。割れ目には 2mm 以下のものが生じている。
	63.62			橙								63.62 ~ 63.90m 劣化した軟変脆弱。節理状の割れ目には、灰白色の土が生じている。
	63.90			橙								63.90 ~ 64.65m 劣化した軟変脆弱。割れ目は不鮮明となり、やや緑色土を帯びる。
64	64.65			橙								64.65 ~ 64.91m 不規則な割れ目
	64.91			橙								64.91 ~ 65.00m 劣化した軟変脆弱。割れ目は不鮮明となり、やや緑色土を帯びる。
65	65.00			橙								65.00 ~ 65.00m 劣化した軟変脆弱。割れ目は不鮮明となり、やや緑色土を帯びる。



調査名		孔番・深度		H27B-4 (70~75)		観察日		7/23				
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破碎度区分	<b>基盤岩コア観察カード</b> 記事・破碎性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
70	70.08		GP	5R2/3 に ふい 煙	√	√						70.06付近 60°幅±0mmで層理的に弱く破碎され脆弱となる。 71.22-60°, 71.25-56° 前断性割れ目(節理)。この間、幅20~30mm脆弱となる。 71.25~72.22 この間+1程度で+1表面はサラン。
	70.22				√	√						
	70.52				√	√						
	70.67				√	√						
	70.90				√	√						
71	71.25				√	√						
	71.95				√	√						
72	72.22				√	√						
	72.56				√	√						
73	73.56				√	√						
	74.16				√	√						
74	74.16				√	√						
	74.34				√	√						
75	74.79				√	√						
	74.84				√	√						

40

調査名		孔番・深度		観察日		基盤岩コア観察カード						
		H27B-4 (75 ~ 80)		7/25		配享・破砕性状・詳細スケッチ等						
標尺	深度	境界・亀裂位置	地層名	色調	細区分				最大コア長	岩盤区分	破砕度区分	
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				変質
75											05 25.05 ~ 25.29 20~40°の傾斜角の割れ目あり。ほぼ平行して卓越する。	
76	25.77 26.25 26.29 26.60		G17	淡	57R 3/4 V C V C V C			0 6			25.77 ~ 26.25 割れ目沿いに方化が見られ、やや脆弱と判る。	
77	27.48 27.67 27.78 27.94			橙	V C V C V C			0 8			27.48 ~ 27.67 割れ目。特に傾斜角の沿いに方化が見られ、コアは軟弱となりガラつく。	
78	28.08 28.21 28.31				V C V C V C			0 6			27.90 ~ 28.08 割れ目沿って方化が見られ、砂状の塊状部が明瞭。 28.21 ~ 28.31 多方向の割れ目が卓越し、やや脆弱。	
79	28.90 29.03 29.23 29.67 29.82				V C V C V C			13 13			28.90 ~ 29.03 28.91 CM 28.90 CL 29.03 CM 29.23 CM	29.45 ~ 29.67 20°の短い節状の汚染が多量に見られ、高角度のものが多い。この節上に割れ目として認識できるものは少ない。
80					V C V C			14 14			29.32 CM	









調査名		孔番・深度		観察日								
		H27B-4 (95~100)		7/27								
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分	<b>基盤岩コア観察カード</b> 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
95												95.00~95.30 25~60°の平行した割れ目に沿って弱い変質作用を受ける。割れ目沿いはやや緑色味を帯びる。
96	96.42		Gp	10YR8/4 浅黄橙	√	D			√	0	3	95.65~95.75 岩化し脆弱となる。輝沸石が散在し(熱水の影響)あり。
97	97.10		Gp	7.5YR8/6 浅黄橙	√				√	6	6	96.32 96.20~√ 30°の層断性の割れ目(節理)。幅30~40cmで脆弱、軟質となり弱い破砕を受ける。一部緑色味を帯びる。
	97.58			10YR8/4 浅黄橙	√	C	√	√	√			97.10~97.58, 97.70~98.00 割れ目が著しく発達し。粗石と岩片が入り混じった状態のコアとなる。
	97.81			浅黄橙	√	B			√			
98	98.03			浅黄橙	√	E			√	0	3	98.02~98.20 短柱状~岩片状コア。割れ目に沿って水化が顕著。
				浅黄橙	√	D			√			98.20~99.00 柱状~短柱状のコアとして採取されるが、定着した微細な割れ目が非常に多く、強度でコア表面はサクサク。
99	99.53				√	C			√	11	11	99.05~99.10 局所的に水化が進行し硬軟化している。輝沸石顕著。 99.10 付近 輝沸石が明確に見られる。
100	99.97				√	C			√	0	5	99.97 m

調査名		孔番・深度		観察日							
		H27B-4 (100 ~ 105)		7/27							
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分				最大コア長	岩級区分	破碎度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破碎性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ				
100				10YR 8/6							100.28 → 100.30 60~55°の斜れ目の中に砂状の破碎物も存在する。褐色汚染も明瞭
	100.90			浅黄橙		B					102.45 25°の低角度斜れ目と同じに解きかけの青色の炭酸鉄物が見られる。この鉱物は柱状と認められることから、鉄鉱石ではなく、磁鉄石の可能性もある。
101	101.07			10YR 8/6							主成分として 101.31 ~ 101.43 低角度の斜れ目が集中。斜れ目沿いの褐色が明瞭。一部局部的に砂状となる。
	101.24										101.43 ~ 102.23 柱状~五柱状のコアが主体。劣化も堅硬である。
102	101.80		GP	浅黄橙		B					102.23 ~ 102.32 斜れ目がやや平直。102.23, 102.25 は節理の節理で、斜れ目沿いの褐色が明瞭。
	102.27										
	102.37										
	102.87										
103	103.40										103.40 ~ 103.55 高角度主成分の微細な斜れ目が平直
	103.45										
	104.03										104.03 ~ 104.17 50~60°の節理性の斜れ目(節理)が平直
104	104.17										平直
	104.67			10YR 7/3 黄橙							104.50 ~ 104.90 コアは砂状の褐色汚染が明瞭である。
105											

調査名		孔番・深度		H27B4 (105~110)		観察日		7/27				
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	<b>基盤岩コア観察カード</b> 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
105	105.08			10YR 7/3	IV							105.08 ~ 105.80 柱状コアが主体で若干変質。
	105.31			に	B							
	105.80			3:	b							
	106.23			い	III							
106	106.23			黄	IV							106.27 ~ 106.30 断片的に割れ目が集中する。割れ目沿いの劣化も僅かに見られる。
	106.52			橙	C							
	106.76			橙	III		3					
	106.80			橙	III							
107	107.47			10YR 7/3	B							106.58 ~ 106.92 コアに放射状の褐色珪藻が見られる。
	107.47			に	N							
	107.47			3:	III							
	107.47			黄	B							
108	108.44			橙	B							107.47 ~ 108.34 堅硬な柱状コアが主体。割れ目や凹表面にマンガンによる環状劣化が見られるが、柱状コアはほぼ見とれられる。
	108.44			橙	b							
	108.71			橙	IV							
	108.71			橙	N							
109	109.79			10YR 8/3	D							108.44 ~ 108.71 弱い剪断破壊を認める。コアは軟弱となる。割れ目も若干不鮮明となる。
	109.79			黄	Hj							
	109.79			橙	D							
	109.79			橙	Hj							
110	110.00			10YR 7/3	C							108.71 ~ 109.79 割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化も見られ凹表面に認められる。108.71 ~ 108.90 2方向の割れ目が明瞭な格子状となる。
	110.00			黄	IV							

調査名

孔番・深度

H27B-4 (110 ~ 115)

観察日

7/27

# 基盤岩コア観察カード

記事・破碎性状・詳細スケッチ等

標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分						最大コア長 Q	岩級区分	破碎度区分		
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの長さ	風化	変質				RQD	
110	110.03 110.07 110.34 110.41 110.68 110.78	110.75		10YR 7/3 に ぶ い 黄 橙	割れ目 状態 V V V V	コアの 形状 V V V V	コアの 長さ V V V V	風化 V V V V	変質 V V V V	RQD V V V V	最大コア長 V V V V	岩級区分 CL CM CL	破碎度区分	110.03 ~ 110.78 微細な割れ目が集積する所があるが、コアは硬く、割れ目もよく発達している。
111	111.07 111.15 111.22		GP	10YR 7/3 に ぶ い 黄 橙	割れ目 状態 V V	コアの 形状 V V	コアの 長さ V V	風化 V V	変質 V V	RQD V V	最大コア長 V V	岩級区分 CM	破碎度区分	111.00 付近 局所的に割れ目面が鮮やかな青緑色に変色している。
112			GP	10YR 7/3 に ぶ い 黄 橙	割れ目 状態 V V	コアの 形状 V V	コアの 長さ V V	風化 V V	変質 V V	RQD V V	最大コア長 V V	岩級区分 CM	破碎度区分	112.04 ~ 113.02 高角度の割れ目が優勢である。コアの割れ目は見えないが、標定物は無く、弱い対称深が認められる。
113	113.41 113.54				割れ目 状態 V V	コアの 形状 V V	コアの 長さ V V	風化 V V	変質 V V	RQD V V	最大コア長 V V	岩級区分 CL	破碎度区分	113.41 ~ 113.46 割れ目目がやや発達する。113.43 の割れ目361に名付が見られ幅5 ~ 30mm程度脆弱である。
114	114.59 114.75				割れ目 状態 V V	コアの 形状 V V	コアの 長さ V V	風化 V V	変質 V V	RQD V V	最大コア長 V V	岩級区分 CM	破碎度区分	114.59, 114.75 割れ目が卓越する。114.40 ~ 114.60 の内 40°程度の平行した割れ目が発達。114.70 付近は破へ片状となる。
115					割れ目 状態 V V	コアの 形状 V V	コアの 長さ V V	風化 V V	変質 V V	RQD V V	最大コア長 V V	岩級区分 CM	破碎度区分	

### 基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標高 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア径 mm	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
115	115.27								CM		115.40~115.50 115.46付近の2条の潜在的な割れ目を中心に褐色汚染が明瞭。黄鉄鉱の分解により赤い水酸化鉄を含んでいる。	
116	116.11 116.26 116.46 116.52			黄橙	10YR 7/3 B III			57 22	CH CM		116.30 50°の割れ目面に厚さ5mmの褐色に汚染された砂状の珪石が見られる。 116.42~119.32 粒状の硬質コアが主を占める珪石の	
117	117.02 117.44 117.52		GP	黄橙	10YR 7/3 B III			47 21	CH		117.00 50°の割れ目に沿って黄鉄鉱の変質が見られ、黄色味を帯びる。割れ目の周囲には輝沸石が生じている。(脱泥作用)	
118	118.00 118.75			黄橙	10YR 7/3 B III			72 30	CH			
119	119.32 119.65			黄橙	10YR 7/3 B III			86 24	CM CL		119.65~119.83 割れ目のやや奥の方。割れ目面には、マンガン及び褐色の汚染が明瞭で、一部の割れ目面には砂状の珪石の珪石が見られる。	
120								30 32				

調査名		孔番・深度		観察日							
		H27B-4(120~125)		7/28							
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分				最大コア長	岩級区分	破碎度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破碎性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ				
120	120.10		10YR 7/3 に 3.0 い 黄 橙	C	C	C		CL 120.10	CH	~120.10 割れ目に沿って変質が見られる 幅2~4mm 軟 質となり	
	120.40										
	120.52										
	120.69										
	120.88										
121	121.16		10YR 7/3 に 3.0 い 黄 橙	C	II	B	35	32	CH	120.69 58°の比較的シャープな割れ目。緑灰色の変質 脈と厚さ2mmの水酸化鉄を伴う。 120.40 ~ 120.56 硬く脆い柱状~板状のコア。褐色汚染 が見られる割れ目が多い。	
	121.42										
	121.60										
	121.74										
	121.88										
122	122.18		10YR 7/3 に 3.0 い 黄 橙	C	II	B	83	28	CH	121.60 割れ目の一部が脆弱で細粒状となり、白色 の結核状の存在物が見られる	
	122.46										
	122.54										
	122.78										
	122.98										
123	123.00		10YR 7/3 に 3.0 い 黄 橙	C	IV	C	36	36	CL	122.18 割れ目の周囲が変質により緑色味を帯びる。輝 沸石が散在しえる。褐色汚染顕著。 122.54 ~ 123.04 顕在化した割れ目の他に微細な割れ 目が多い。	
	123.26										
	123.34										
	123.34										
	123.34										
124	124.09		3.0 い 黄 橙	C	IV	B	0	8	CH	123.00 高角度の割れ目に厚さ1~2mmの二酸化 化マグネシウムが挟まる。割れ目が僅かに脆弱である	
	124.30										
	124.30										
	124.30										
	124.30										
125										124.09 ~ 柱状コアが主となり、変質も硬い。~124.30 までは、割れ目に存在物が見られる	



調査名

孔番・深度

H27B-4 (125 ~ 130)

観察日

1/28

## 基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 (m)	深度 (m)	境界 亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大 コア長 FOC	岩級 区分	破砕 度区分		
					割れ 目状態	コアの 形状	コアの 傾き	風化 変質					
125	125.20			10YR7/3 に	II					CH		125.32付近 局所的に微細な割れ目が見られる	
	125.37				IV					CM			
	125.80			黄橙	III					CH			
	126.34				IV	B	8	3	47	20	GM		
126	126.34				III					CH		126.34 ~ 126.69 柱状コアであり肉眼では認識できず T <sub>1</sub> の存在がT <sub>2</sub> の割れ目(へき断)に認められ、両者は連続したコアカタマリである。	
	126.69				IV					CM			
	127.00								24	14	27.00		
	127.19		GP		C	C	2	3					
127	127.45				V					CL		不規則な 127.00 ~ 127.03 微細な割れ目が見られる。 127.00 ~ 127.20 軟質でコア表面がサラサラ、変質の影響で割れ目に沿って緑色味を帯びる所がある。	
	127.60												
	127.83				C	B							
	128.00				IV				12	12	CM		
128	128.26	2.32										128.26 ~ 128.76 微細な割れ目が見られる。割れ目沿いに 褐色汚染が見られる。	
	128.38												
	128.76				V	C				CL			
	128.90				IV	B	75			CM			
129	128.90				C				0	8	CM	128.90 ~ 129.10 割れ目沿いに褐色が見られ、一部の割れ 目は不規則なものである。	
	129.18				V	C				CL			
	129.29				IV	C							
	129.33												
129	129.52				T							129.33 ~ 10YR7/6 明 黄 橙 129.77 10YR7/5 に 黄 橙	
	129.77				III	B				CM			
	129.79				IV	C			1/3	32	CL		
	130												

# 基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
130				10YR 7/3								
	130.42				C	C				C2		130.02 ~ 130.42 高角度の割れ目が見られ、その割れ目沿いに高化。一部砂状となる。
	130.75											
131				10YR 7/3								
	131.21				B	B			0	9		130.84 付近 交差する割れ目に挟まれた区間が局所的に高化し、砂状となる。
	131.54				b	b						
	131.64				II	II						
	131.73				IV	IV		3				131.54 ~ 131.64 コアの硬さが高化し砂状となる。
132				10YR 7/3								
	132.44				B	B			46	33		132.14 ~ 132.89 堅硬な柱状コア。
	132.47				b	b						
	132.67				IV	IV						
	132.89				III	III						
133				10YR 7/3								
	133.26				IV	IV			45	26		132.89 60° の割れ目にマカンを厚さ 3mm 程度挟みこむ。
	133.59				B	B						
	133.70				C	C						133.26 割れ目面が砂状となり、隙には褐色の細粒物が付着する。
134				10YR 7/3								
	134.02				IV	IV			57	26		134.02 ~ 134.50 強い方向性汚染がコア全体に及ぶ。
	134.50				B	B						134.50 ~ 134.73 コアはやや青味を及ぼす。風化の影響は少ないが、珪化(原岩)以上に硬い。
	134.73				b	b						少量 134.73 付近、変鉄鉱が分解過程の自鉄鉱が混入。同位体は褐色汚染がせまい範囲に及ぶ。
135				10YR 7/3								
									45	14		

調査名

孔番・深度 427B-4(135~140)

観察日

7/29

# 基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分		
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				変質	ROD
135	135.07		GP	10YR 7/3 に 3: い 黄 橙	IV						CH		
	135.28				b	II							135.28
	135.60				c								CA GM
136	136.00		GP	に 3: い 黄 橙	b						38 22 136.00		
	136.30				c							CL	
	136.50				b							CM	
	136.64				c							CL	
137	137.02		GP	に 3: い 黄 橙	b						30 24 137.02		
	137.43				c							CH	
	138.59				b							CM	
	138.01				c							CL	
138	138.01		GP	に 3: い 黄 橙	b						54 24 138.01		
	138.47				c							CL	
	138.72				b							CM	
	139.00				c							CH	
139	139.31		GP	139.31 10Y 7/1 灰白 139.47 10YR 7/3 に い 黄 橙	b						28 14 139.00		
	139.47				c							CH	
	139.72				b							CM	
140	140.00		GP	に い 黄 橙	c						CL		

135.28 ~ 135.60 この間の傾斜角割れ目は2~3径の割れ目が2~4m程度の距離で平行に接している。表面は石らしい

136.00 ~ 136.20 高角度の割れ目が見られ、傾斜角が互いに交差し、割れ目がやや卓越する。割れ目には2mm以上のゴツゴツとした挟持物が見られるものがある。

136.34m の38°の割れ目に沿って幅緑色の粘土質の劣化層部(緑泥石に作用)が見られ、その中に小さな粗沸石が散在している。

136.41m 局所的(5~15mm幅)に割れ目が直交し、マンガンが認められる。

137.02 ~ 138.09 堅硬な粒状コ

138.01 ~ 138.47 微細でほぼ平行した割れ目が非常に卓越。

138.29m 中10mm程度の平行した割れ目が非常に卓越する。

139.70m 70°の割れ目→付着性のある結晶、10mm程度の粒状の挟持物が見られ、上盤側には平行な割れ目が3条見られる。

標尺 140.00m

調査名

孔番・深度

H27B-4(140~144)

観察日

7/29

## 基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	
					割れ目状態	コアの形状	コアの傾き	風化				
140				10YR 7/3 濃い黄橙								140.00~140.36 40~50°の傾斜を有する割れ目が卓越する
	140.36			140.43 2.5YR 7/3	C							140.00~141.43 傾斜面に沿って多量な角化が見られ細砂状と粗砂状とを有する。
141			明赤灰					3				141.00~141.43 低角度を主体とした割れ目が卓越し一部は甲状と有る
	141.00								0.7			
	141.53											
	141.68											
142												141.68~142.50 高角度をほぼ垂直の割れ目と40~50°の傾斜面が5~10cm間隔で交差する
	141.68											142.1~142.35に於ける割れ目の一部には厚さ2~15mmの砂状の採石物が見られる
	142.45											142.53 50°の傾斜面に厚さ10mmの細砂と砂が採石物と有る
	142.59			10YR 7/3								
	142.89											
143			黄橙									142.89~143.65 傾斜面に卓越した割れ目に沿って角化し細砂状と有る。
	143.49											
	143.65											143.65~ 堅硬な粒状コア
144												
									62	15		

H24-D1-5

# 第四系コア観察カード

調査名		孔番		観察日			
		D1-5		5/26			
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ	マーカ-	地質名	色調	堆積構造・特徴等
				○ 灰物 r 山 /// 灰質 □ 土 ● 炭 ○ 貝 ○ 化石 ○ 木片			
0							
0.5							
1							
0.5							
2							
0.5							
3							
0.5							
4							

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ◐ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等  
境界 明瞭 — 不明瞭 --- 亀裂は赤線, 角度, 条線等

# 第四系コア観察カード

調査名		孔番	D1-5	観察日	5/26		
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ	マーカ 火山灰 買物土 化石 木片	地質名	色調	堆積構造・特徴等
4							
	4.20					10YR 5/3 12.5% 黄褐	
0.5	4.50					10YR 5/6 黄褐	
	4.80					10YR 6/2 灰黄褐	
5						10YR 7/3 12.5% 黄褐	
	5.40					10YR 5/3 12.5% 黄褐	
6						10YR 7/3 12.5% 黄褐	
	6.60					10YR 5/3 12.5% 黄褐	
7							
	7.40						
0.5							
8							

改良土

7.41m 以下  
↓  
基礎名可参照

スケッチ: 礫はクサリ● 半クサリ◐ 硬質○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等  
境界 明瞭—— 不明瞭---- 亀裂は赤線, 角度, 条線等

調査名		孔番・深度		観察日									
		D1-5 (241 ~ 1000)		5/6									
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等 ↓ 破砕帯の境界と位置	
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化					変質
6													
7													
8	2.41		gp	2.5YR 7/4 10%黄	c	v	e	δ	3	0	2	D	<p>細部コア観察のため参照 ↑ 2.41m 参考</p> <p>2.1~2.4m 石英、長石の斑晶からなる花崗斑岩(gp)の破砕帯。 2.41~2.51m 風化で著しく軟化が、岩組織はほぼ残存、割れ目は一部は消滅し消滅したものは割れ目も消滅するものが多い。長石斑晶は全に粘土化で白濁状の。これ以外に粘土化が粘土化は強くて分布する。割れ目30~50cm程度、割れ目間5~10mm程度の粘土化が多い。</p> <p>2.45m、40°割れ目はせん断性割れ目で、長さ約53°幅2mmの石英脈に付着している(変位量5mm程度)</p> <p>2.48m、450°幅5~10mmの緑泥化(緑泥石化)粘土化は伴わない。</p> <p>2.51~2.53m: 破砕帯</p> <p>2.51~2.66m: HJ 上端55°下端50°で、上端はほぼ連続的であるが、下端は不明瞭に破砕帯が連続。 2.5m前後の組織が消滅し軟化し粘土化が片断と片断の間を繋ぐ。石英の幅1~2mmの組織が淡黄色(2.5YR 7/3)粘土化が粘土化の片断と呈現。2.51~2.53mは粘土化が連続している。 色調は、淡黄~10%黄(2.5YR 7/4)で、厚さは140mm(27%)</p> <p>2.66~2.69m: Hb 上端50°下端80°で、上端は不明瞭に、下端は連続して連続。2~3mm石英粒と5mm前後の粘土化はgpが分布する。組織が10%黄(2.5YR 7/3)色の連続粘土で、厚さは25~30mm</p> <p>2.69~2.70m: Hc-1 (主せん断面-270°) 上端60°下端60°で、両側とも連続して連続。φ1mm以下の微小石英と少量の粘土化が連続(2.5YR 7/4)粘土。厚さは23~28mm</p>
9	2.48 2.51 2.69 2.70 2.98			2.5YR 7/4 10%黄	d	v			4	0	2	D	
10													















調査名		孔番・深度		観察日																
		D1-5 (40.00 ~ 45.00)		4/7																
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等								
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化					変質	ROD						
40			Gp	2.5YR 7/4 1Rの橙	c	V	C	γ	2		CL	<ul style="list-style-type: none"> <li>40.12m. 57°はセメント性割れ目。交差角 40°割れ目にて切れてく (方位角 60° 左右)</li> <li>40.23m. 59° 幅 0.5mm 程度のセメント性割れ目と石英脈の連続部。</li> <li>40.52m. 60°はセメント性割れ目にて 交差角 20° 割れ目にて切れてく (方位角 60° 程度)</li> <li>40.73 ~ 40.85m 上端 55°, 下端 60° 割れ目に 3mm 程度の石英脈。割れ目初めに 2-3mm 程度の圧縮痕跡 (2.5YR 6/2) 粘土状の付着。</li> <li>40.85 ~ 41.08m 50-60° 割れ目 10-30mm 間隔に平行に分布。割れ目には石英脈の付着。一部はセメント性付着。</li> <li>41.08 ~ 41.49m 粘土質の厚さ 2-10-30° 割れ目と 47° 程度の石英脈割れ目。両者の交差角は 10-20° 程度。</li> <li>41.49 ~ 42.23m 10-30° 割れ目。石英脈割れ目主体で、一部は 20-30° 程度に石英脈の付着。交差角は 5-42.15m 付近では 45-60mm 程度の付着。</li> <li>42.05m 以上の割れ目 1mm 以下の細粒の石英脈の付着。</li> <li>42.23 ~ 42.74m 50-60° 割れ目 10-30mm 間隔に平行に分布。一部は 20-30° 程度に石英脈の付着。交差角は 5-42.15m 付近では 45-60mm 程度の付着。</li> <li>42.74 ~ 43.25m 風化に伴い、割れ目の一部は消滅。割れ目には石英脈の付着。交差角は 50-60° 主体で、粘土質の付着。一部は 20-30° 程度に石英脈の付着。交差角は 5-42.15m 付近では 45-60mm 程度の付着。</li> <li>43.25 ~ 45.09m 風化に伴い、割れ目の一部は消滅。割れ目には石英脈の付着。交差角は 50-60° 主体で、粘土質の付着。一部は 20-30° 程度に石英脈の付着。交差角は 5-42.15m 付近では 45-60mm 程度の付着。</li> </ul>								
41	40.93 40.85												d	V	E	δ	3			D
	41.08												c	V	D		γ	11	11	
	41.49												b	V	B		γ			
													c	V	C		γ			
42	42.07 42.23			2.5YR 7/6 橙	c	V	C	γ			CL	<ul style="list-style-type: none"> <li>42.23 ~ 42.74m 50-60° 割れ目 10-30mm 間隔に平行に分布。一部は 20-30° 程度に石英脈の付着。交差角は 5-42.15m 付近では 45-60mm 程度の付着。</li> <li>42.74 ~ 43.25m 風化に伴い、割れ目の一部は消滅。割れ目には石英脈の付着。交差角は 50-60° 主体で、粘土質の付着。一部は 20-30° 程度に石英脈の付着。交差角は 5-42.15m 付近では 45-60mm 程度の付着。</li> </ul>								
	42.54												N	C		γ				
													c	V	D		γ	15	13	
43	43.25												d	V	E		γ	3		D
													d	V	E		γ	3		D
44								0	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>43.80m. 60° はセメント性割れ目。上端には石英脈の付着。</li> <li>44.30 ~ 44.94m は 2.5YR 6/2 の粘土質の付着。</li> </ul>									
45								0	1											





標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長 ROD	岩級区分	破碎度区分	<h3 style="text-align: center;">基盤岩コア観察カード</h3> <p style="text-align: center;">記事・破碎性状・詳細スケッチ等</p>
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
50	0.5		Gp	25YR 6/2 灰褐色	b	IV	B	γ	2		(M)	<p>・48.30 ~ 48.61 m                      硬く脆く割れ目、40°前後の割れ目、5°主体で、一部20°に斜交する20~30°の割れ目、両者の交差部48.40~48.45mにて45~100mの範囲に斜交する。                      割れ目の砂状化はほとんどなく、粘土層が分布しない。</p> <p>・48.61 ~ 49.50 m                      全層に割れ目が多くあり、形状V型あり。                      40~60°割れ目が主体で、48.61 ~ 48.80 mにて割れ目には砂状化部が2~5m前後に斜交する。また、49.25m以下には40~60°割れ目と斜交して20~30°割れ目と交差し、45~200mの範囲に砂状化部、粘土層が分布する。                      各割れ目は49.37m、40°の白色粘土層が分布する中で、粘土層は粘土層部や粘土層が分布する。</p>
51	5.1	50.83							10	10		<p>・49.50 ~ (52.75 m)                      硬く脆く割れ目、50~60°と45°に斜交して20~50°割れ目が主体で、同角の低角度割れ目一部に分布する。                      50.63 ~ 50.66 mの割れ目は割れ目幅が3~10cmに細粒化する。砂状部や粘土層は分布する。</p> <p>・50.73 ~ 50.75 mの50~60°割れ目は赤色帯あり。</p> <p>・51.38 ~ 51.42 m 50~60°割れ目(=)は中粒部(硬く)の粘土層や粘土層が分布する。</p>
52	0.5								10	10		<p>・52.17 m、50~60°の割れ目(=)幅が3~5mmの緑灰色部(緑化部)。40.5m以下の緑部は金属鉱物部あり。</p>
53	0.5	52.75			b	IV	B	γ	2		(M)	<p>・52.75 ~ 53.58 m                      30~60°割れ目主体で、割れ目中に砂状部や粘土層部~粘土層部(=)あり。                      一部細粒部が分布するが、高角度は多く、20~30°の割れ目は多数あり。</p> <p>・52.91 m、50.40 ~ 50.45 mの岩脈が母岩に密着して連続。一部浸透部は分布する。</p>
54	0.5	53.58		25YR 6/2 灰褐色		IV					(M)	<p>・53.58 ~ 54.00 m                      20~60°割れ目一部は同方向の低角度割れ目が分布する一部は、20°の割れ目と低角度割れ目が分布する。</p>
55	0.5								24	12		<p>54 mで概</p>

余白